（京都コンピュータ学園　京都コンピュータ学院京都駅前校）

kcg.edu

文部科学省 委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

専門学校・高等学校連携による中核的IT専門職人材の加速型育成プログラムの開発・実証　活動概要説明

2026年1月15日



Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

kcg.edu

2021(令和3)年度より，文部科学省の専修学校による地域産業中核的人材養成事業に採択され，次の団体と産官学連携コンソーシアムを構成し，「専門学校・高等学校連携による中核的IT専門職人材の加速型育成プログラムの開発・実証」を行っています。

産官学連携コンソーシアム構成団体
京都府立京都すばる高等学校
京都府教育庁指導部
BIPROGY株式会社
一般社団法人京都府情報産業協会
京都コンピュータ学院京都駅前校

Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

kcg.edu

本事業目的

IT人材不足を解消するために，産官学が連携し，IT専門職人材を効果的かつ加速的に育成する。

修学プラン

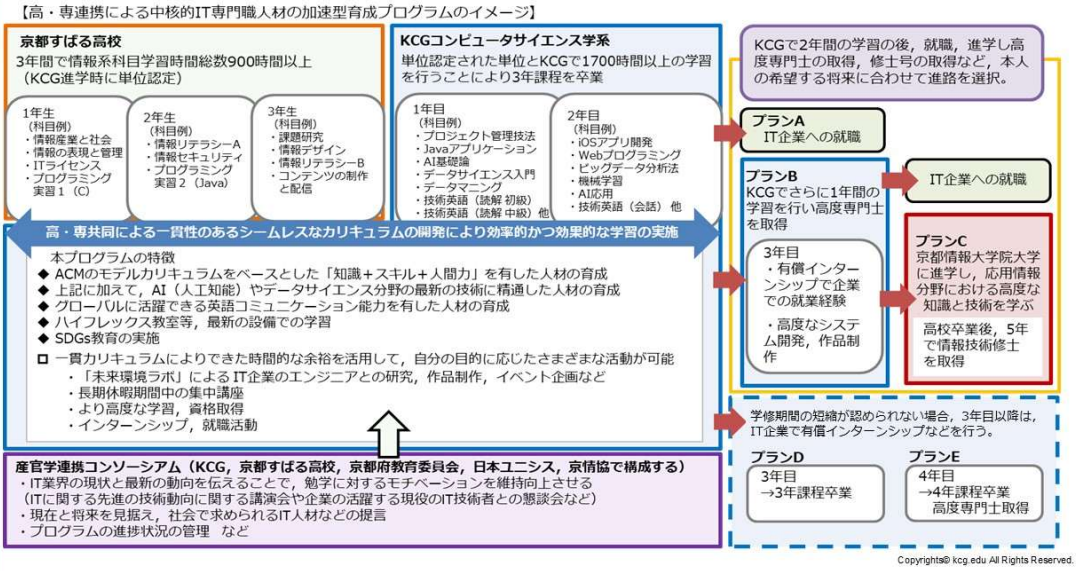
職業系専門学科を有する高等学校と専門学校とが有機的に連携し，専門人材を効果的に輩出する。
両者の教育カリキュラムに一部同等な内容が含まれていることを活用するなど，両者間において連携を図り，高等学校と専門学校とで重複した学習内容を取り除き，一貫性・効率性の高いシームレスな教育カリキュラムを共同で開発する。そうすることで，専門学校入学後の基礎的な科目の履修を免除し，学習期間を短縮，または，より高度な学習，資格取得，インターンシップなどの就労経験を積むなどが可能になる。

Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

kcg.edu

計画の全体のイメージ像

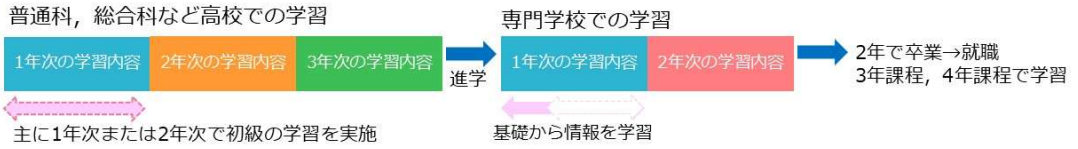
【高・専連携による中核的IT専門職人材の加速型育成プログラムのイメージ】



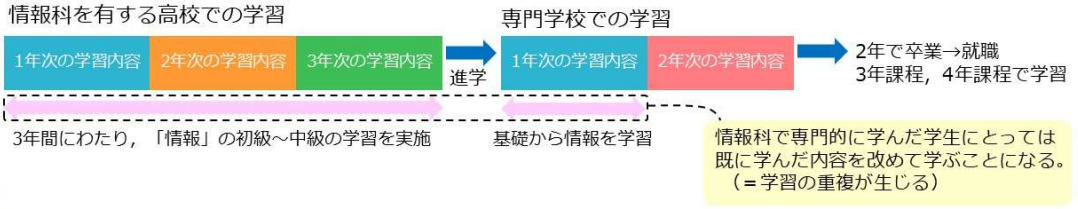
Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

kcg.edu

高等学校と専修学校の従来の接続の形



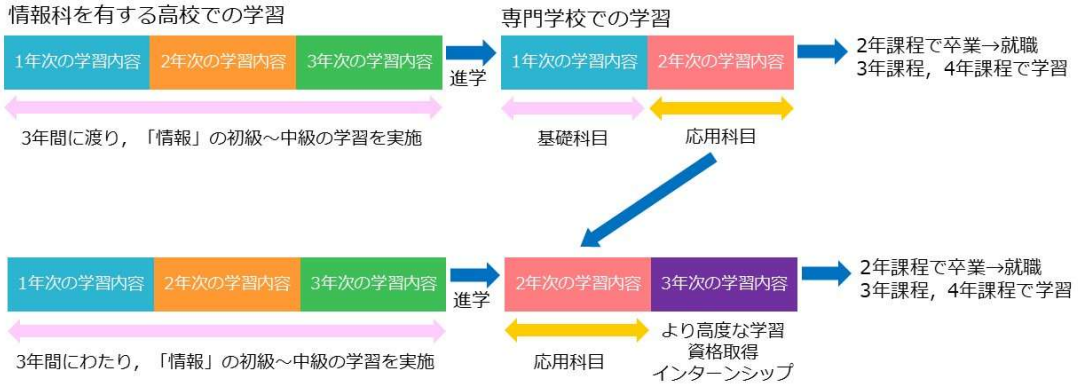
情報科を有する高校の3年間の「情報」に関する学習時間は，専門学校の1年間の学習時間に相当する。
高等学校と専修学校が共同でカリキュラムや学習内容を開発することにより，高校3年間でKCGの約1年間の学習を入学前に済ませることが可能になる。



Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

kcg.edu

高等学校と専修学校の本事業が目指す接続の形



Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

kcg.edu

本事業の主な取組

① 京都すばる高校情報科学科1～3年生を対象とした実証授業の実施

② 「ITパスポート試験対策動画コンテンツ」や「IT試験トレーニングアプリ」を活用した学習

③ 「情報処理技術者試験トレーニングアプリ」機能追加

④ IT学習動画コンテンツの制作（AI・ディープラーニングの活用編）

⑤ 本プログラムを多くの方に知っていただくための取組

⑥ 将来のIT業界に就職し活躍するための業界・企業・仕事の研究

⑦ 企業ヒアリング

⑧ ハイフレックス教室を用いたアクティブラーニング実証授業の実施

Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

文部科学省 委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
専門学校・高等学校連携による中核的IT専門職人材の加速型育成プログラムの開発・実証

ハイフレックス教室を使った実証授業



セミナーの内容

日時：2025年12月23日 13:00～16：00
場所：参加者所属校（京都すばる高等学校，亀山高等学校，京都コンピュータ学院）
参加者：京都府立京都すばる高等学校 6名
三重県立亀山高等学校 7名
京都市立日吉ヶ丘高等学校 3名（初参加）
京都コンピュータ学院 3名
内容：・現役エンジニアによるIT講演会（30分）
「知って，遊んで，考えて，創ってみよう」
・ワークショップ（150分）
生成AIの仕組み，ChatGPT設定等，プロンプト演習・ブレインストーミング，
小説プロンプト演習，挿絵の生成，各校からの発表・質疑応答

Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

ハイフレックス教室を使った実証授業

- ハイフレックス環境（教室）
  - 遠隔地からでも，対面でも特別に意識することなく授業が受けられる環境
- 狙い（目的）
  - 4拠点間を結んでどの程度のコミュニケーションをとることができるかを検証し，そのために必要な機材，環境などを確認するとともに，講義担当者やティーチングアシスタントが，複数拠点にいる生徒に対応できるノウハウを蓄積する。
- 方法
  - Zoomの画面共有を用いて，自分（相手）が行っている作業を参照しながら作業を進める

Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

ハイフレックス教室のイメージ

kcg.edu



集音マイク・スピーカー



オンライン参加

集音性の高いマイク，マルチ映写が可能なモニターなどにより，教室で参加している学生とオンラインで参加している学生が違和感なく，コミュニケーションを取ることができる。

Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

kcg.edu



集音マイク・スピーカー

教室と教室を繋いで，同じ教室にいるような環境を創る。



A高校



C高校



B高校

オンライン参加

Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

当日の様子







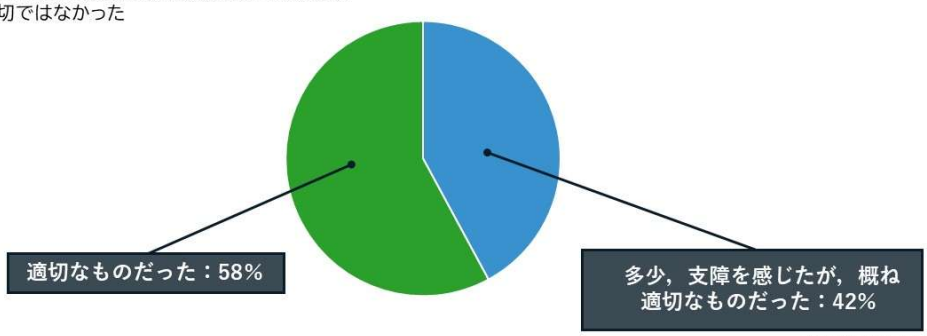

Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

⑦ハイフレックス教室を用いた実証授業のアンケート結果

遠隔講義についてあなたの感想を教えてください。

遠隔講義についてあなたの感想を教えてください。コミュニケーションを取る上において，「映像」は適切なものでしたか？

- 適切なものだった
- 多少，支障を感じたが，概ね適切なものだった
- 適切ではなかった



Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

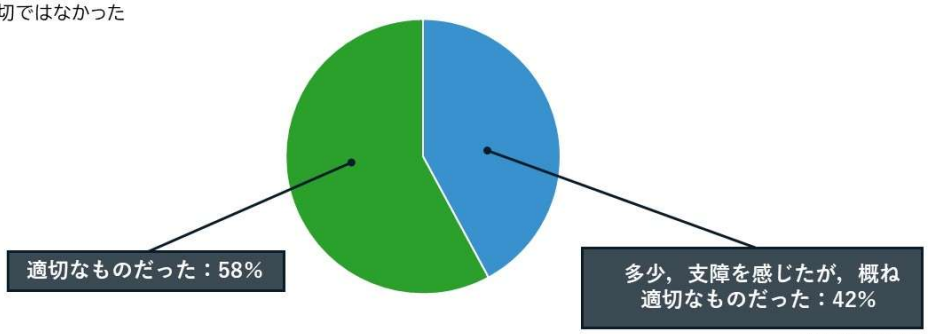
kcg.edu

⑦ハイフレックス教室を用いた実証授業のアンケート結果

遠隔講義についてあなたの感想を教えてください。

遠隔講義についてあなたの感想を教えてください。コミュニケーションを取る上において,「音声」は適切なものでしたか？

- 適切なものだった
- 多少, 支障を感じたが, 概ね適切なものだった
- 適切ではなかった



Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

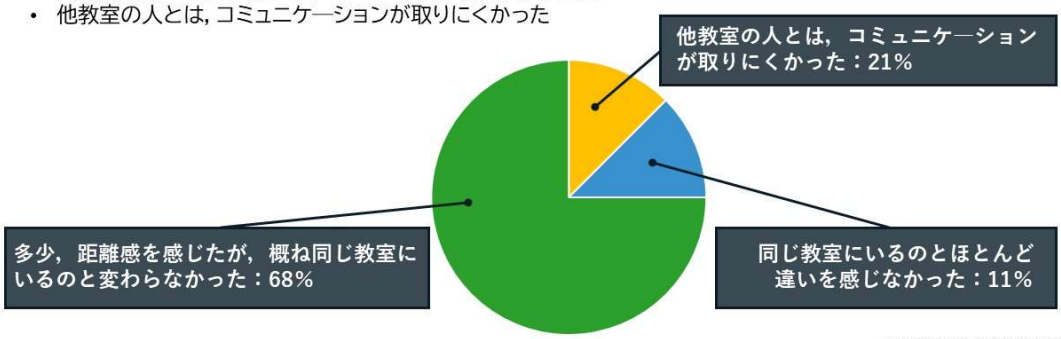
kcg.edu

⑦ハイフレックス教室を用いた実証授業のアンケート結果

遠隔講義についてあなたの感想を教えてください。

遠隔講義についてあなたの感想を教えてください。離れた場所にいる人との「コミュニケーション」はどのように感じましたか？

- 同じ教室にいるのとほとんど違いを感じなかった
- 多少, 距離感を感じたが, 概ね同じ教室にいるのと変わらなかった
- 同じ教室にいるよりもコミュニケ―ションが取りやすかった
- 他教室の人とは, コミュニケ―ションが取りにくかった



Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

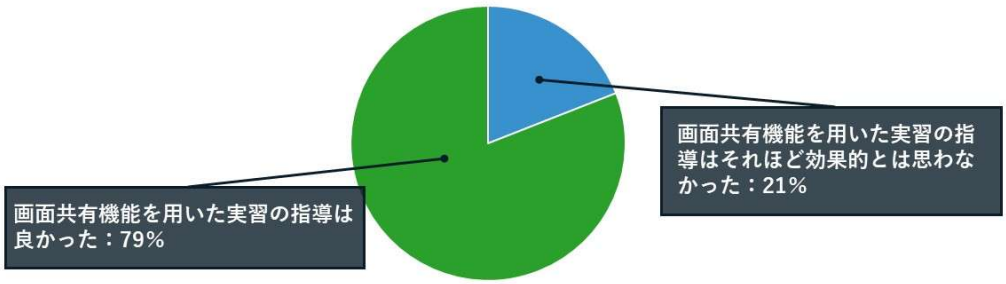
kcg.edu

⑦ハイフレックス教室を用いた実証授業のアンケート結果

遠隔講義についてあなたの感想を教えてください。

遠隔講義で実習を行いましたが，それに関してお聞きします。

- 画面共有機能を用いた実習の指導は良かった
- 画面共有機能を用いた実習の指導はそれほど効果的とは思わなかった
- 画面共有機能を用いた実習の指導は行わなかったのでわからない



Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

kcg.edu

⑦ハイフレックス教室を用いた実証授業のアンケート結果

遠隔講義についてあなたの感想を教えてください。

画面共有機能を用いた実習の指導を良いと答えた方にお聞きします。どのような点が良いと感じましたか。（自由記述）

・自分がどのスライドを見たら良いのかがすぐ分かる。
・教室だと、後ろの席の人は見えにくかったりするけど、画面共有だと皆見えるのがいいと思う。
・自分の近くの画面で見れるから目が悪くても平気な点がよかったです。
・自分の端末でその画面が表示されるので黒板などの方を目を凝らしてみる必要がなく、近くで文字とか見れるから目の悪い私からしたら助かった。
・今話している内容の資料を見ながら、話を聞けるのでとてもわかりやすいと感じたからです。
・Zoomなどで資料を手元で確認することができるので、良いと感じました。
・どんなことを考えているのか見れるため。
・遠距離の人が、なにをしているか、すぐに分かる点
・離れていても同じ授業ができる点。どんな環境で作成しているのかがわかる点など良かったです。
・どこにいても受講ができることが何よりの利点だと思いました。
・アンケートのQRコードを映したりできて、とても有効に用いられていたと思った。
・他校の生徒と一緒に学ぶことができる貴重な機会になったからです。

Copyrights© kcg.edu All Rights Reserved.

（国際総合学園　新潟会計ビジネス専門学校）

実践的な経理事務の授業による早期スキルアップ事業

Go! NABI Student

学校法人 国際総合学園　新潟会計ビジネス専門学校

1

1. はじめに

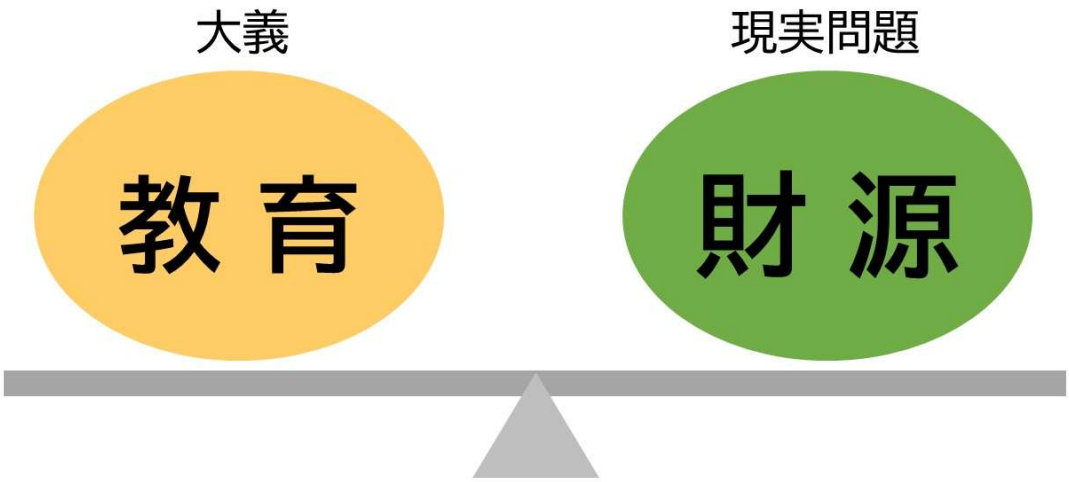
2

地域経済の安定的な発展に貢献する教育プログラムを、
経理分野の観点から開発・実証する

実践的な経理事務の授業による早期スキルアップ事業

2.令和9年度以降を意識した事業設計

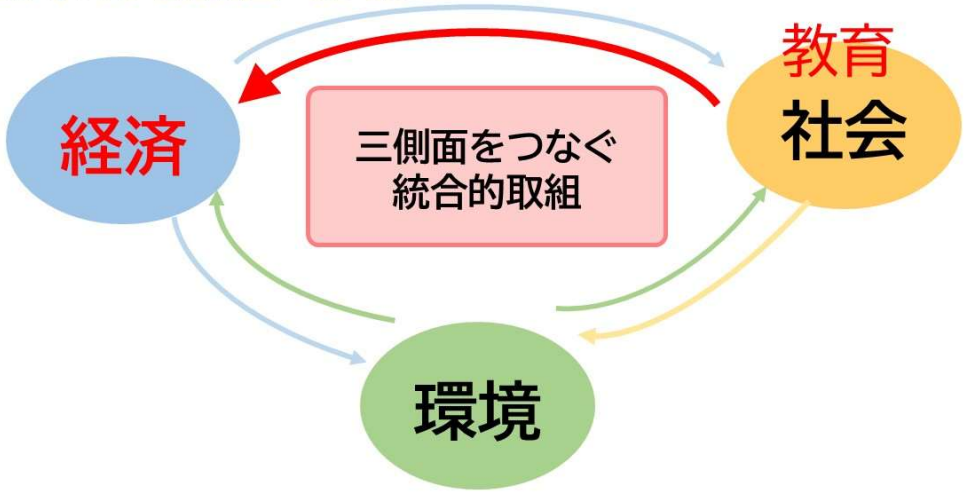
3



2.令和9年度以降を意識した事業設計

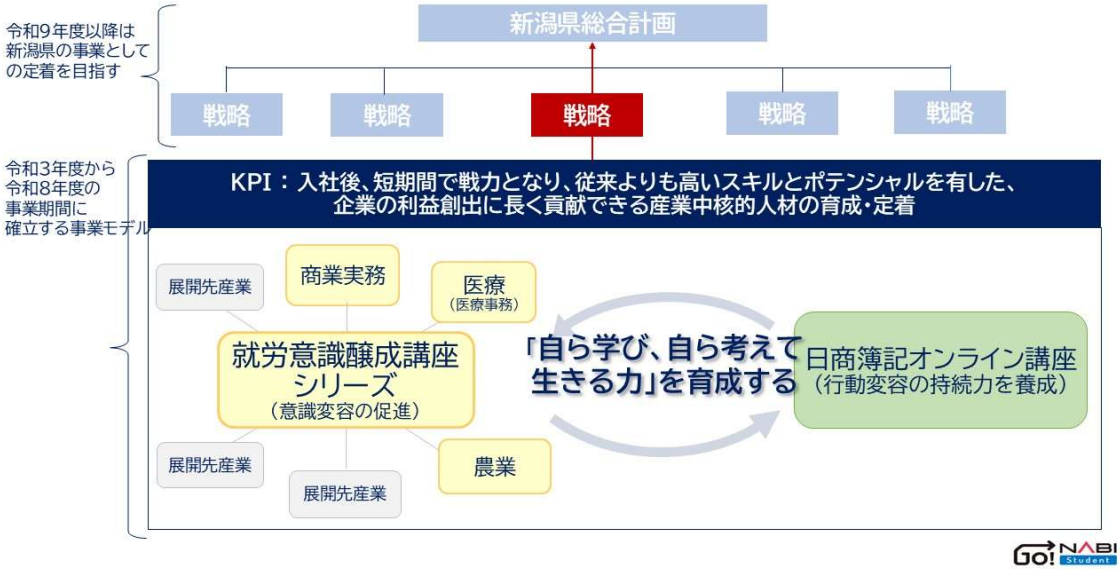
4

国が求める地方創生×SDGs



2.令和9年度以降を意識した事業設計

5



2. 新潟県が本事業に参加する意義

6

・県外に人材が流出しやすい位置

・県内の大学設置数22校の条件下で、専門学校進学率が全国トップ

・産業8分野すべての専門学校を擁する、日本で唯一の学校法人
が存在し、他の産業への展開モデルをつくりやすい

産業若手人材の地域定着に
専門学校の果たす役割が大きい

3.令和7年度の実証について

7

【新潟県の課題認識】

意識変容

☞地場産業や企業に関する、学生における認知が低い点。

☞そもそも学生の興味や意識がどのような点にあるのか？

行動変容

☞どのように若者に県内で活躍してもらえるのか？

推進交付金を活用した事業の必要性を国に訴求していくには、データの裏付けを伴ったロジックが必要

令和7年度の重点ポイント **意識変容と行動変容の連関**

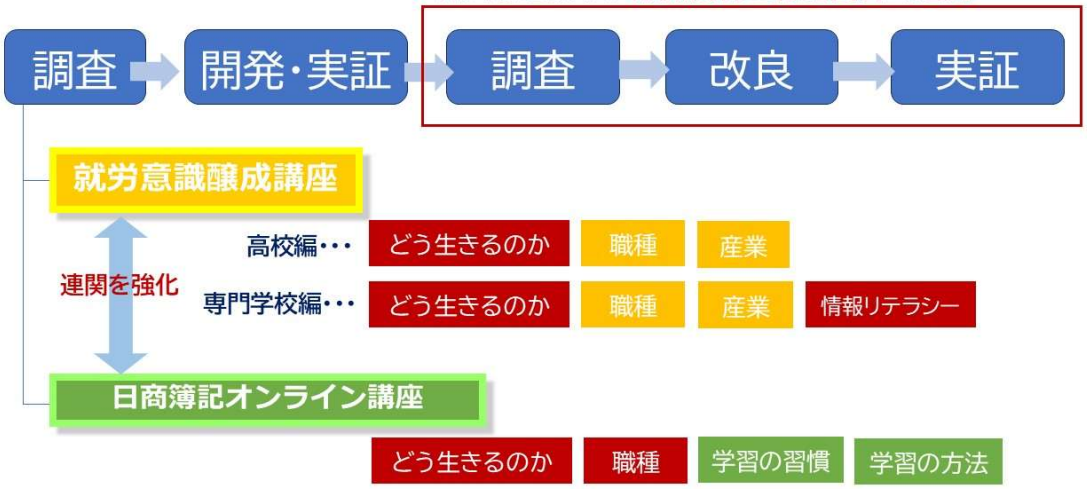


Go! NABI Student

3.令和7年度の実証について

8

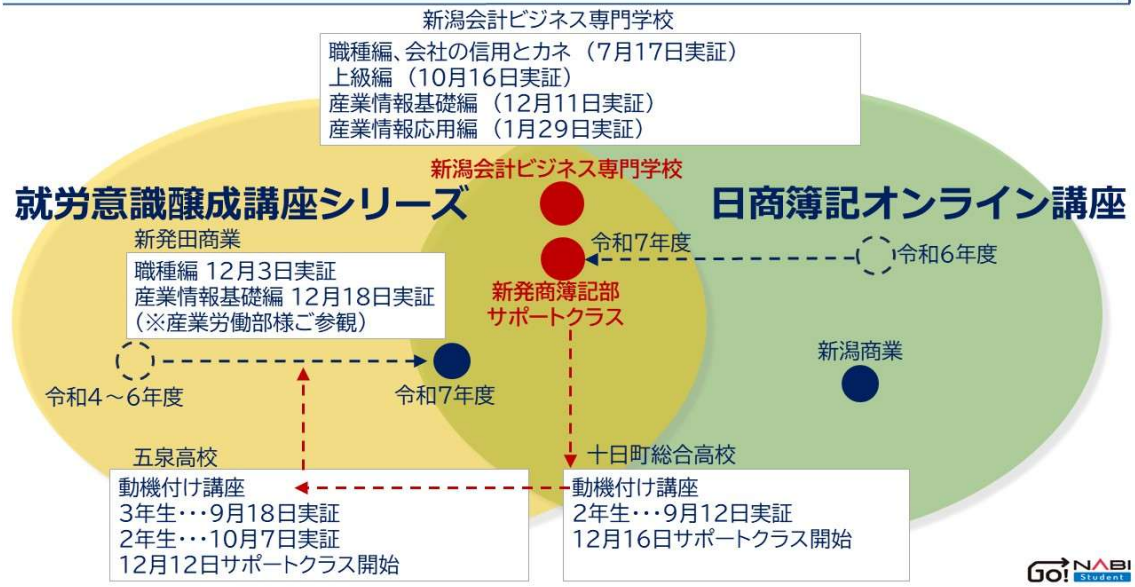
令和7年度の重点ポイント **意識変容と行動変容の連関**



Go! NABI Student

3.令和7年度の実証について

9



4.最後に

10

新潟経済の発展のために
高専接続事業を新潟の事業として定着させる。
絶対に実証事業で終わらせない。

（西野学園　札幌心療福祉専門学校）

地域活性化のための農福連携人材育成事業

令和７年 1月17日

学校法人西野学園 札幌心療福祉専門学校　佐藤 誉匡・飯島　英幸

事業の趣旨・目的

農福連携による

「福祉側の障がい者の雇用拡大」

「農業者側の働き手の課題」

↓

解決するために農福連携の知識・技術を身につけた人材を育成する。

開発する教育プログラム

「農福連携」による地域活性化をテーマに、高等学校等と専門学校の連携による高専一貫カリキュラムの編成及び構築

↓

Ⅰ 余市紅志高等学校との連携授業

Ⅱ 札幌圏域連携授業

Ⅲ オランダ視察

Ⅰ 余市紅志高等学校連携授業

目 的

・課題を発見し、解決する力を身に付け向上する。

・相手に対して自分の考えを分かりやすく話すコミュニケーション能力、及び協調性を向上する。

・計画性を高め、いつまでに何をどのような形にしていなければならないのか見通しを持ち、自主的に行動できるようになる。

・地域貢献、共生社会の実現を意識し、自分ができることは粘り強く取り組もうとする使命感や責任感を高め、積極的に行動できるようになる。

・専門学校生との直接的な関りにより、高校生自身が今後どのような人材になりたいのか将来像を深める。

概 要　※ 連携授業回数 合計16回（1回100分、対面11回）

高校授業：通年の授業「地域園芸」での連携

・授業テーマ：余市養護学校生を招いてミニトマトの芽かき作業を行う際の手順書作成

・ねらい：①農福連携について理解し、手順書作成に関わる知識、技術を身に付け、作業手順を言語化する力を育成する。
②障がい者が農業分野で活躍し社会参加を実現していくために必要な資質、能力を育成する。

・参加学生：高　校　生（3年生）　18名
養護学校生（2年生）　18名
専門学校生（2年生）　 3名

①連携授業ガイダンス

学習内容：オリエンテーション、授業の説明と農福連携について理解する





②障害者の理解

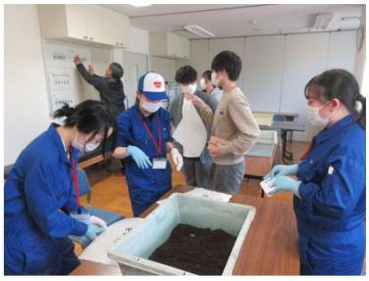
学習内容：余市養護学校見学、余市養護学校教諭及び専門学校教員による講義





③対象者の理解（交流会）

学習内容：種まき交流会 、収穫交流会





④手順書作成

学習内容：高校生が作成した手順書で専門学生が模擬作業体験、再考、修正





⑤手順書検証

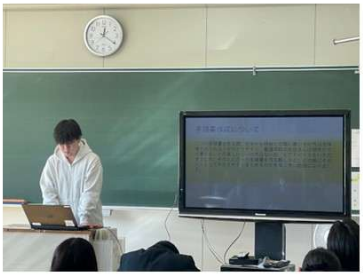
学習内容：芽かき作業交流会 、振り返り




⑥報告会

学習内容：これまでの学習や交流会で学んだことを発表





成 果（高校生へのアンケート結果を踏まえ）

・各学生が養護学校生に対して、個々に合わせた関わり方と分かりやすく話すことを意識して取り組んだ結果、
　① 他者の考え方や価値観を受け入れようとする気持ちが向上した。
　② コミュニケーション能力及び観察力、客観的に自分自身を見る力が向上した。

・養護学校生との交流会を３回実施したことで、
　① イベントに向けての協働性や課題解決の意識が高まり、責任感を持って取り組むことができた。
　② 障害を特別視していたが活動を通して、個性であり特別視することではないと感じた。障害の理解が深まった。
　③ 偏見や共生社会について考えることができるようになった。

Ⅱ 札幌圏域連携授業

北海道との連携

北海道

全８回の講座のうち**５回以上**受講することで、
北海道保健福祉部・農政部から
『**農福連携入門講座修了証**』が発行されることになった。

対象：専門学校生
　　市立札幌大通高等学校生
　　他、一般、大学生等

目的

・主に農業を通して、畑での仕事から加工、販売に至る各過程を体験しながら、誰もが安心してそれぞれの力を発揮できる環境を整えていく視点や技術について学ぶ。

・福祉の立場から農業を盛り上げ、地域を盛り上げることで誰もが過ごしやすい社会を目指す視点を学び、「共生社会」についての理解を深める。

授業（講座）内容

1「多様なコミュニケーション」
2「農家から見た農福連携」
3「福祉から見た農福連携」
4「流通の仕組み、効果的な広告」
5「利益の出し方、魅力的な売り場づくり」
6「福祉的視点を持った販売 ＝ マルシェ開催」
7「農福商工連携」
8「農福連携の6次化」

農福連携入門講座修了証の発行 【修了証の授与式】

日　程：令和8年2月7日　10：00～
場　所：札幌心療福祉専門学校
対象者：19名
参加者：受講者・北海道農政部・保健福祉部・西野学園
内　容：当日は修了証授与の他、道庁担当者を交えた講座の振り返りを座談会形式で行う予定

成 果（高校生へのインタビュー結果から）

・自身のキャリア形成のヒント獲得
・福祉に関する理解・興味の向上
・「大人」や「仕事」に対する好印象の獲得
・自己有用感の向上

Ⅲ オランダ視察

８月５日（火）～１１日（月）

目　的

　これまで日本の農福連携の取り組みについて理解してきたが、福祉と農業を結び付けて農福連携を先進的に取り組みをしているオランダのケアファームの活動内容を視察し学びを深めるとともに、今後の農福連携の取り組みに反映していくために視察を実施した。

余市紅志高等学校連携授業





〇コンテナを使用したバリアフリー農園
〇共生社会

札幌圏域連携授業





〇参加者は子供から高校生、専門学生、大学生、大人まで
　世代を超えて交流。
〇共生社会

ケアファーム

〇オランダのケアファームは20世紀初頭から存在しており、自然と触れ合うことで心身の健康を促進する目的がある。

⇩

〇このケアファームは福祉と農業を結びつけることで特に障害を持つ人々や高齢者が農業の活動を通じて**身体的・精神的な健康の向上**を目指している。

現在、約1,350ヶ所

フークブルックケアファーム



（ミーティングからワークへ）



（ダイニングルーム）

ケアファーム内で農業を行うことの特徴・効果

○余暇活動の充実
○リハビリテーション
○癒し
○活き活きとした生活　など

⇩

福祉と農業の結びつきが利用者にとって日常生活の向上など
良い効果をもたらしている。

ケアファームの視察から取り入れたい点

①福祉施設内のプログラムの拡充
　　農作業を取り入れたプログラム

②子どもから障害者、高齢者まで世代を超えた交流ができる
　居場所づくり

③利用者同士の助け合い

オランダ視察の成果①

　オランダの農福連携の取組みの視察からこれまで余市紅志高等学校連携授業、札幌圏域連携授業で実施した内容が福祉と農業を結び付けることは利用者にとって良い効果があることと共生社会の実現につながることを確信する。

⇩

障害児、高齢者の各通所施設が
同じ敷地に開設準備

オランダ視察の成果②

○オランダ視察に参加した卒業学年３名中２名が農福連携を実践している福祉事業所へ就職を希望。１名が内定。

○オランダ視察を広く周知するため、本学園内の教職員、福祉施設職員に報告会の実施。

⇩

農福連携を実践する福祉施設の新規開拓や拡充



オランダ視察の成果③

・１年を通じて農作業が行える場所の開拓のため、施設内で栽培ができるLED栽培を次年度に企業と連携し実施予定。



（世界園芸センター）

⇨



（本校の教室）

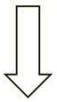
体験学習の教材作り

オランダ視察の成果④

カリキュラム変更

〈現カリ〉

コース制　　精神保健福祉コース
　　農福連携ソーシャルワークコース



〈新カリ〉

令和８年度入学生からコース制の廃止
全学生に福祉と農業を学べるように拡充を図る

最後に

今後も共生社会を目指す人材を輩出

今後について

- 余市紅志高等学校との連携授業
- 札幌圏域連携授業
- 農福連携入門講座
  （北海道農政部、保健福祉部との連携）

（仙台北学園　仙台リハビリテーション専門学校）

事業概要及び進捗状況の報告

２０２５年度「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」
１月１６日（金）１月度セミナー発表

知的障害特別支援学校高等部と
専門学校の有機的連携の開発と実証
学校法人　仙台北学園　仙台リハビリテーション専門学校
作業療法学科学科長　櫻井直人

1

事業概要

2

本事業の目的

- ２０２１年度に「知的障害特別支援学校高等部と専門学校の有機的連携の開発と実証」が採択

- ６年間の事業計画に基づき5年目が終了

- 本事業は、全国的にも類例がない取組みとして、知的障害者を対象とした特別支援学校高等部及び高等学園と専門学校並びに就労先企業が連携・接続し、一貫型の職業教育プログラムを開発・実証することを目的とした

3

本事業を計画した背景

①特別支援学校の児童・生徒は年々**増加傾向**

②特別支援学校高等部及び高等学園の**進学率（大学・専門学校等の高等教育機関）が５％未満**

③特別支援学校高等部及び高等学園の就労先企業の**定着率がよいとは言えない**

『これらの現状に対し卒業後の地域における多様な自立を促進するためにも**職業教育のさらなる向上**や充実化が課題であろうと考えています。』

4

効果的な事業（実証）のために

『特別支援学校高等部及び高等学園と専門学校において主に４つの連携を推進していきます。（**相互理解の促進**）』

①特別支援学校・専門学校教職員間の連携

②特別支援学校・専門学校教職員と生徒の連携

③特別支援学校間の連携

④専門学校間の連携

5

事業の進捗状況

6

主な連携校（5校）

【宮城県】
①岩沼高等学園
②小牛田高等学園
③女川高等学園
④秋保かがやき支援学校

【福島県】
⑤大笹生支援学校

7

岩沼高等学園（宮城県）

8

本年度実証事業

①６/１５（日）
→日本知的障害者ソフトボール大会ハンズホールディングスカップ２０２５
　前練習試合
　宮城県選抜　VS　仙台リハビリテーション専門学校・OG
　　郡山健康科学専門学校学生・教員
②９/１３（土）・９/１４（日）
→日本知的障害者ソフトボール大会ハンズホールディングスカップ２０２５
③９/１２（金）－１４（日）
→日本一の芋煮会フェスティバル（事前学習・準備、出店）
④１０/４（土）
→仙台リハビリテーション専門学校学園祭（出店）

9

①日本知的障害者ソフトボール大会ハンズホールディングスカップ２０２５前練習試合
　仙台リハビリテーション専門学校・OG
　郡山健康科学専門学校学生・教員



10

②ハンズホールディングスカップ
（日本知的障害者ソフトボール大会）







※当校学生・教員はボランティアとして参加

③山形芋煮フェスティバル（事前学習・準備）

9/12（金）事前学習・準備（販売計画）

商品名	目標	実数	販売価格	売上(予定)	売上	材料費等(原価)	収益	利益(儲け)	出店料等	消耗品
かき氷	300	202	300	90,000	60,600					
ミルク		40	50		2,000	18,753	44,447			
おかわり		6	100		600					
きゅうり（細目は袋販売）	120	110	150	18,000	16,500	9,360	14,140			
	280	35	200	7,000	7,000					
アイスクリーム	130	113	200	26,000	22,600	2,328	20,272			
甘酒	100	20	200	20,000	4,000	1,500	2,500			
合計							81,359	27,254	53,000	1,105
報酬(岩沼生徒)							12	2,271		

※販売したきゅうりは宮城県立農業高等学校から提供（購入）







③山形芋煮フェスティバル（事前学習・準備）

9/14（日）事前学習（販売の実践）



※ポップは当校作業療法学科学生が作成



④仙台リハビリテーション専門学校学園祭出店





※支援学校生徒・教員が専門学校を知るきっかけを提供

14

①一貫型職業教育プログラムの開発・実施

【1学年】
→①ビジネスマナー（服装・身だしなみ・言葉づかい）
②キャリアデザイン、いろいろな職業（働く目的）
【2学年】
→③仕事をするときに心がけること
④キャリアデザイン・いろいろな職業と適性、自己理解
【3学年】
→⑤履歴書の書き方、採用面接
⑥健康管理とメンタルヘルス（栄養管理・筋トレ・メンタル）

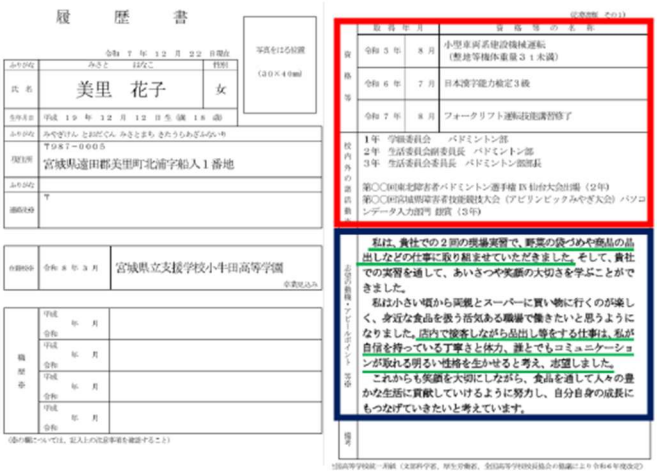
※小牛田高等学園を対象に主に開発・実施を進めていた
今年度は岩沼高等学園・秋保かがやき支援学校でも実施（横展開）

16

小牛田高等学園（宮城県）

15

①一貫型職業教育プログラムの開発・実施
3年生「履歴書の書き方・採用面接」（例）



履　歴　書

令和 7 年 12 月 22 日現在

ふりがな	みさと　はなこ	性別	写真をはる位置（30×40mm）
氏名	美里　花子	女	
生年月日	平成 19 年 12 月 12 日生（満 18 歳）		
ふりがな	みやぎけん とみだぐん みさとまち さだうらあざふかいや		
現住所	〒987－6665 宮城県遠田郡美里町北浦字船入１番地		
ふりがな			
連絡先	〒		

令和8年	令和 8 年 3 月	宮城県立支援学校小牛田高等学園 卒業見込み

職歴等	平成・令和 年 月	
	平成・令和 年 月	
	平成・令和 年 月	
	平成・令和 年 月	

（各々の欄については、記入上の注意事項を確認すること）

（次頁有）

資格等	取得年月		資格等の名称
	令和 5 年	8 月	小型車両系建設機械運転 （整地等機体重量３１未満）
	令和 6 年	7 月	日本漢字能力検定３級
	令和 7 年	8 月	フォークリフト運転技能講習修了
校内外の諸活動	1年　学園委員会　バドミントン部 2年　生活委員会副委員長　バドミントン部 3年　生活委員会委員長　バドミントン部部長 第○○回東北障害者バドミントン選手権 B1 仙台大会出場（2年） 第○○回宮城県障害者技能競技大会（アビリンピックみやぎ大会）パソコンデータ入力部門 銀賞（3年）		
志望の動機・自己ＰＲ・学生生活で力を入れたこと	私は、食社での２回の現場実習で、野菜の袋づめや商品の品出しなどの仕事に取り組ませていただきました。そして、食社での実習を通して、あいさつや笑顔の大切さを学ぶことができました。 私は小さい頃から買い物とスーパーに買い物に行くのが楽しく、身近な食品を扱う活気ある職場で働きたいと思うようになりました。店内で接客しながら品出し等をする仕事は、私が自信を持っている丁寧さと体力、誰とでもコミュニケーションが取れる明るい性格を生かせると考え、志望しました。 これからも笑顔を大切にしながら、食品を通して人々の豊かな生活に貢献していけるように努力し、自分自身の成長にもつなげていきたいと考えています。		
趣味			

（公財）全国高等学校就職問題研究会（文部科学省、厚生労働省、全国高等学校長協会の推薦により令和6年度改定）

17

②本年度実証事業（小牛田高等学園）

内容：学外での課外活動（新規プログラムの作成）

目的：余暇の充実、社会性・主体性の向上、体力・知的機能等の基礎力の向上

対象：プログラムに興味を持った小牛田高等学園の生徒

時期：夏期、冬期等の長期休暇中

詳細：

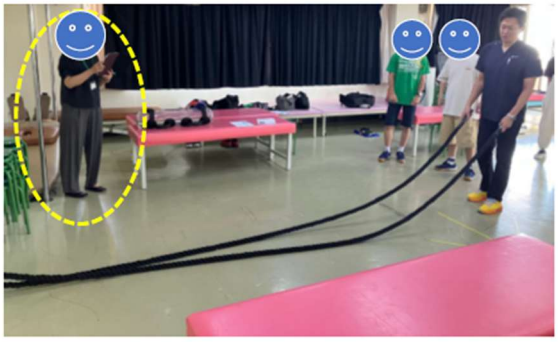
専門学校への見学（体験）などの実施を検討させて頂いております。より効果が望める・期待出来るプログラム等を作成し提案。

※仙台リハビリテーション専門学校理学療法士教員に協力依頼

18

②本年度実証事業

7/24（木）・7/25（金）
「フィジカルコンディショニング講座の開催（参加者１０名）」
→小牛田高等学園教員１名視察・保護者様１名帯同あり





※今年度は**１２/１２（金）**にヒヤリング（振り返り）を実施

19

女川高等学園
（宮城県）

20

実証講座（女川高等学園）

内容：介護についての講座
目的：学習意欲、介護技術の向上
対象：福祉コースを選択している生徒（３～５名程度）
時期：本年度後期
詳細：
女川高等学園では介護初任者研修を実施している。
しかし、専従の教員は現場経験に乏しい…
→郡山健康科学専門学校様・仙台医療福祉専門学校様に協力依頼

21

①事業講座の予定
（郡山健康科学専門学校介護福祉学科教員）

日程：①１２月４日（木）　１３：１０～１４：４０
→ポジショニングについて（褥瘡予防・関節拘縮予防）
②１月２９日（木）　１３：１０～１４：４０
→リフターの活用について





※　**写真は褥瘡・関節拘縮予防を目的としたポジショニングについての講座**

22

介護分野での実証講座では？
介護の専門学校の紹介動画作成（使用）





23

②事業講座の予定
（仙台医療福祉専門学校の協力）

日程：①２月２日　１４：３０～１６：００

→入浴についての講座（座学）in仙台医療福祉専門学校

②２月９日　１３：１０～１４：４０

→入浴についての講座（実地）in女川高等学園







24

秋保かがやき支援学校（宮城県）

25

本年度実証事業（秋保かがやき支援学校）

- 小牛田高等学園で実証に取り組んでいるプログラムの標準化が進んできた。
- 本年度は秋保かがやき支援学校でも実施。

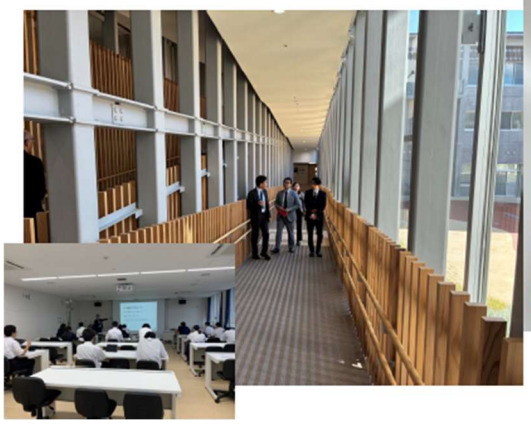
日程：①９月５日（金）　９：４５～１１：４５　（１年生）
②１０月２日（木）１０：５０～１２：２０（２年生）
③１０月７日（火）１３：３０～１５：００（２年生）
④１０月８日（水）９：５０～１１：３０　（１年生）

→文部科学省専修学校教育振興室第二係長を始めとする職員方の見学・視察あり。

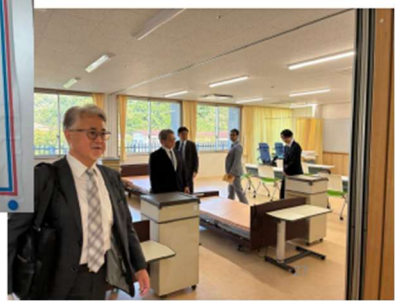
26

本年度実証事業
（文部科学省専修学校教育振興室職員視察）

・主に小牛田高等学園様で開発・実証に取り組んできたプログラムの**標準化・横展開**が出来ている。







大笹生支援学校
（福島県）

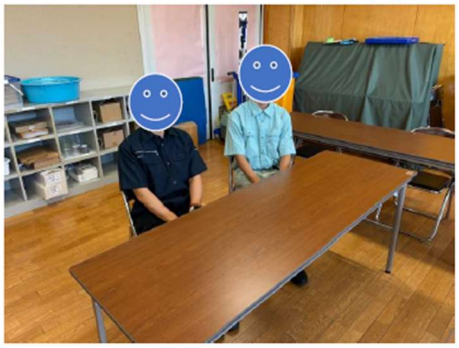
本年度実証事業（大笹生支援学校）

内容：進学の支援
目的：進学を目指している生徒さんの支援
対象：現３年生
時期：継続
詳細
現３年生で仙台の専門学校（動物・ペット系）への進学が決定
→9月生徒本人・担任の先生にヒヤリングを実施
→今後アンケートを作成し、課題に感じている事などを確認予定
→３月に入学予定の専門学校と今後の支援体制について相談予定

29

本年度実証事業（大笹生支援学校）

- 先生方の協力も得られ、実習はペットショップで実施。
- 生徒さん本人、保護者からの承諾を頂き入学予定の専門学校と連携を図って行く（**進学後も作業療法士による支援の継続**）



入学予定の生徒さんと担任の先生



学内実習の様子

30

今後の展望（計画）

- 今年度は**進学を見据えた教育プログラム**の開発を進めている。

- 特に介護分野のニーズが高い。業界の人材不足を背景に、就労と結びつきやすく、給与面も改善してきている。介護系の専門学校に進む場合の教材開発を進めていきたいと考えている。

- 特別支援学校の先生は**「専門学校へ進学した場合に障がい者雇用枠での就労支援をしてもらえるか？」「専門学校にそのノウハウがあるのか？」**という点を心配されている。そのため専門学校の先生を対象とした障がい者雇用に関する講習会等の開催を検討。

31

介護の専門学校へ進学した学生を対象とした教材の開発

ゴール	それぞれのコンピテンシー（業務遂行能力）を伸ばし、将来、介護の現場で自分らしく力を発揮するための"土台"をつくる
対象	介護福祉専門学校 1年生、特別支援学校高等部 介護福祉コース 3年生
背景	➢ 専門学校では、知識の習得だけでなく、体験や協働を通じて「職業人としての土台」となるコンピテンシーを育てていくことが重要。 ➢ コンピテンシーは誰かと比べるものではなく、個々が持つ"伸びしろ"を最大限に引き出すことが大切。 ➢ 知識や経験の差に左右されることなく、自分のペースで伸ばしていける環境づくりが欠かせない。 ➢ 学生同士が互いに補い合いながら、基本的な姿勢や自信を育てていける教材が求められる。
手法	**PBL型協働学習** ➢ 専門学校の学生（1年生）と特別支援学校の生徒（3年生）とで混合グループを作り、各グループで協働しながら「調べる」「アイデアを出し合う」「意見をまとめる」「形にする」「共有する」の手順を踏む ➢ **生成AIを活用** 手順を踏む中で、生成AIを個々の力を補完するツールとして活用する 例えば、学生のメモやアイデアをAIで整理・整形してスライド化したり、言葉にしにくいものを「形（イラストや図）」にして共有する、など
期待される効果	➢ 自分の考えや意見が仲間の役に立つ経験を通して、「自分にもできるんだ」と感じられるようになる。 ➢ 知ったことを整理して、仲間にわかりやすく伝えようとする中で、表現する力が育っていく。 ➢ みんなで協力し合いながら一つの成果物をつくり上げる体験を通して、協働することの楽しさを自然と味わえるようになる。

今後の展望（計画）

①専門学校教員・企業向けの研修会（障がい者雇用等について）
→専門学校・企業の理解促進
→独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構宮城障害者職業センターと連携
→障害者職業生活相談員資格取得（仙台リハビリテーション専門学校職員）
→作業療法士による進学後のジョブ（スタディー）コーチ支援

②専門学校教員を対象とした特別支援学校高等部の見学会の計画（視察）
→宮城県専修学校各種学校連合会との協力体制の構築（協働）

③特別支援学校の先生を対象とした研修・交流会の開催（相互理解・共通認識）
→専門学校の存在意義・強みの発信・職業教育について

33

今後の展望（計画）

【成果報告会の開催】
令和８年2月９日（月）13：30～14：30（Web形式）

≪通達先（一部）≫
・全国の特別支援学校（主に高等部）
・東北県内の高等学校（当校入学実績のある）
・宮城県内の専門学校（宮城県専修学校各種学校連合会に協力）
・宮城県作業療法士会など（リハビリテーション専門職の職能団体）

34